

# 魔法の medicine プロジェクト活動報告書

報告者氏名: 薄 洋介 所属: 東京都渋谷区立神南小学校・きこえとことばの教室  
 記録日: 2021年2月12日 キーワード: 外国にルールを持つ子供、多言語環境、言語指導

## 【対象児の情報】

- ・学年: 小学校 第4学年
- ・障害と困難の内容: 言語発達の遅れ

## 【活動目的】

- ・当初のねらい
  - ①伝わりやすい表現を学ぶために、書き言葉によるコミュニケーションの機会を補償する
  - ②家庭での学習環境を調整し、言葉の学習機会を増やす
  - ③保護者とのコミュニケーションを円滑にする
- ・実施期間: 令和2年6月～令和3年2月
- ・実施者: 薄 洋介
- ・実施者と対象児の関係: きこえとことばの教室(難聴言語障害通級指導学級)担当者

## <活動内容と対象児の変化>

### 児童の実態

#### 通級に至る経緯など

- ・幼児期より言語発達の遅れを指摘され、第1学年後半より当通級指導教室にて指導を開始した。
- ・学級での指示理解や友人とのコミュニケーション、また学習面全般において課題がみられている。
- ・現在は概ね週1回程度の通級指導を行っている。

#### 家庭環境

- ・保護者の母語: 父/日本語 母/中国語 (家庭内での使用言語は日本語)
- ・育児(学習面含む)は、ほぼ母が担っている。
- ・本児は生後からずっと日本で生活している。
- ・幼児期は母方の祖母に育児サポートを依頼することも多かった。その際は中国語でのやりとりだった。
- ・早生まれ(3月14日生まれ)
- ・一人っ子

### 実施した検査

【WISC-IV】(8歳7か月)

[全検査 IQ] 92

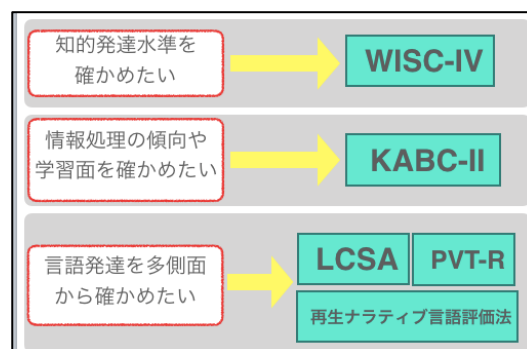
言語理解	知覚推理	ワーキングメモリ	処理速度
82	98	112	91

【KABC-II】(8歳7か月)

[認知総合] 81 [習得総合] 90

継次	同時	計画	学習
94	86	78	87

語彙	読み	書き	算数
69	108	93	115



検査バッテリー選定の理由

【LCSA (学齢版言語・コミュニケーション発達スケール)】(8歳2か月)

口頭指示の理解	聞き取り文脈理解	音読	文章の読解	語彙知識
8	4	4	8	3
慣用句・心的語彙	文表現	対人文脈	柔軟性	音韻意識
5	3	2	5	8

[ LCSA 指数 ] 63

[リテラシー指数] 78

【PVT-R(絵画語い発達検査)】(6歳11か月)


評価点:6 語彙年齢:5歳1か月

【再生ナラティブ言語評価法】

- ・表現の誤りはみられるが、大枠の起承転結は掴むことができている。
- ・動作主の表現が曖昧になることが多かった。
- ・助詞の誤りが多くみられた。

**助詞の誤り**

ナレーション  
「ある夜、まもるくんと犬が眠っている間に、かえるが瓶から這い出てしまいました。そして、開いている窓から外へ逃げ出しました。」




Aさん  
夜、まもるくんと犬が寝ている間に、かえるが瓶の中にから出てきて、開いてる扉のところに外に出かけました。

助詞を誤る頻度は高い

**主語と目的語の置きかわり**

ナレーション  
「怒ったフクロウも、穴から出てきてまもるくんを脅かしました。」



Aさん  
そして、木の中にいたまもるくんは、フクロウに驚かそうかしました。まもるくんを

主語と目的語の置換は多い

本児の様子

<言語面>

- ・語彙が少ない。特に学習言語(書き言葉)が弱い。
- ・「さっき/昨日/明日」等の時間を表す語彙や、「ななめ/端っこ」等、空間認識の語彙も弱い。
- ・格助詞の省略や誤りが多い。(例:飛行機はテレビにあります/学校を行く)
- ・受動/能動文の使い分けが難しい。(例:お母さんに驚かせた/正:お母さんに驚かされた)
- ・接続詞の使用は少ない(使用する接続詞が固定化している)

<学習面>

- ・平仮名、片仮名の単音の読みは定着している。単語や文の読みだと安定せず、たどたどしい読みになる。
- ・特殊音節は、読みについては概ね習得できている。書きについては省略や文字の入れ替わりが多い。
- ・書字の形は学年相応のものより、やや雑さが見られる程度で全く読めない程ではない。
- ・国語科の読み物は時間をかけ、繰り返し読み聞かせるなどの手立てを施せば学年相応の理解はできる。
- ・単純計算の処理は得意である。習い事では先取りで課題(計算)に取り組んでいる。
- ・語彙が少なく、自分の知らない概念の言葉や、抽象的な意味の言葉の漢字を覚えることができない。・ワークテストなどでは質問の意味がわからず、0点をとったこともある。

<学級での様子(主に学級担任から)>

- ・基本的に人懐っこく、穏やかな性格である。
- ・周囲とのトラブルで一度感情的になると、抑えが効かなくなる。他害に発展することもある。

(例:手が接触しただけで飛びかかり噛み付く、幼児参観の時に幼児とトラブルになり手を出す、等)  
 →周囲は本児とどうコミュニケーションをとってよいのかわからずに困惑してしまい、その結果、本児が周囲から浮いてしまう状況になることも多い。  
 ・担任の指示を理解できないことも多く、周囲の動きを観察し、それに合わせて行動する傾向がある。  
 ・以前は国語や算数のワークテスト中に、自分の出来なさ加減に泣いてしまうこともあった。  
 ・周囲との関わり方について、本児なりにうまくいかず、ストレスがある様子である。

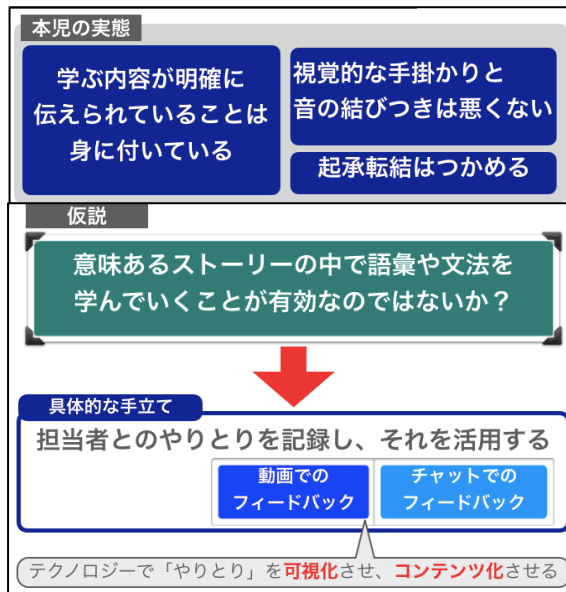
### 今年度の学習目標

- ①伝わりやすい表現を学ぶために、書き言葉によるコミュニケーションの機会を補償する
- ②家庭での学習環境を調整し、言葉の学習機会を増やす
- ③保護者とのコミュニケーションを円滑にする

### 活動の具体的内容

【アセスメントなどから推測される本児の実態】

- ・学ぶ内容が明確に伝えられているは身につけていることは身につけている
- ・視覚的な手掛かりと音の結びつきは悪くない
- ・起承転結はつかめる



実態把握から具体的な手立てまでの流れ

### 【指導仮説】

意味あるストーリーの中で語彙や文法を学んでいくことが有効なのではないか?

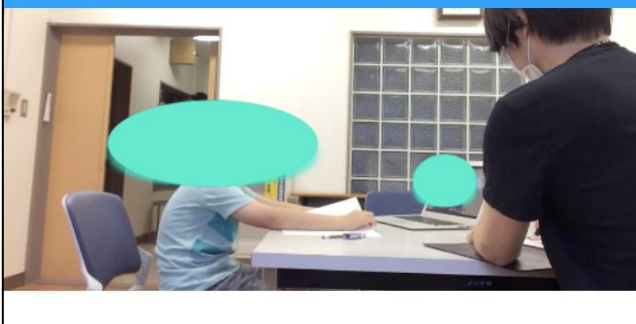
①やりとりの記録を用いて言葉の指導を行う

#### ①-1 動画でのフィードバック

まず担当者とのやりとりを録画し、誤った表現をしている場面を抽出した。抽出場面を本児と一緒に確認しながら、表現の修正を図っていった。動画でやりとりを振り返り、修正を加えていく過程において、児童は客観的に自己の言動を振り返ることができた。

### 動画でのフィードバック

表現の誤りがある動画を見せる (字幕付き)



動画に字幕を加え、理解を支えた

### 動画での振り返りで「メタ認知」を刺激する

自分の言動を客観的に振り返る



メタ認知を刺激し、日常の般化に繋げる

## ①-2 チャットでのフィードバック

本児とは「ByTalk」を用いて日常的にチャットでのやりとりを実施した。チャットの中で伝わりづらかった表現などを抽出し、通級の時間に修正する活動を行なった。担当者とのやりとりという「ストーリー」の中で言葉の修正が図れるため、本児なりに手応えを感じ、言葉が定着しやすい様子が見られた。

The screenshot shows a chat interface with the ByTalk logo. Three messages are highlighted with red boxes and arrows pointing to a worksheet on the right. The messages are: "みんなも興味持ちそうですね。", "頑張ってください😊", and "とうがらしはもうとうがらしに近いです。", "だいたい3月です。". The worksheet, titled "実際のワークシート", shows the original messages with handwritten corrections in blue and red ink. The first message is corrected to "とうがらしは もう とうがらしに近いです。", the second to "とうがらしはもうすぐでいかんせいで す。", and the third to "だいたい3月です。 育つ のは だいたい 3月です 2020年の 3ヶ月のこと?".

「ByTalk」とワークシートを組み合わせた指導

This screenshot shows a chat message: "おつかれさまでした😊 どんなことをしたんですか?". A yellow callout box says "伝わりやすいように、具体的な表現を促す". Below the message, a handwritten correction in blue ink reads "遊ぶです もう少し具体的に". A red arrow points from the callout box to the correction.

伝わりやすい具体的な表現を促す

This screenshot shows a chat message: "ごめんなさい今日はプールがあるからちょっとメールを送らないです。時間は6時から7時までプールをします。". A yellow callout box says "通級で確認した言い回しを、すぐ活用しようとしている". Below the message, a handwritten correction in blue ink reads "だいたい5時までできます。". A red arrow points from the callout box to the correction.

言い回しの修正が見られるようになった

## ①-3 言葉の動作化

本児が苦手とする「自動詞・他動詞の使い分け」について、実際に動作化をしてもらい、その後にVTRで振り返る活動を行なった。「動きをつける」と、「(VTRから)動きを見る」ことによって、言葉の定着が促されている様子が見られた。

(例)

- ・男の子が火を燃やす／火が燃える
- ・男の子がハンカチを落とす／ハンカチが落ちる
- ・男の子がカレーを残す／カレーが残る





## ②-1 語彙の学習

・語彙の学習量を確保するため、一人で学べる学習アプリを選定し、自宅で行っていただいた。

<アプリ選定の基準>

- 1、読み上げがある
- 2、視覚的な手掛かりがある
- 3、シンプルな操作性
- 4、進捗を確認できる

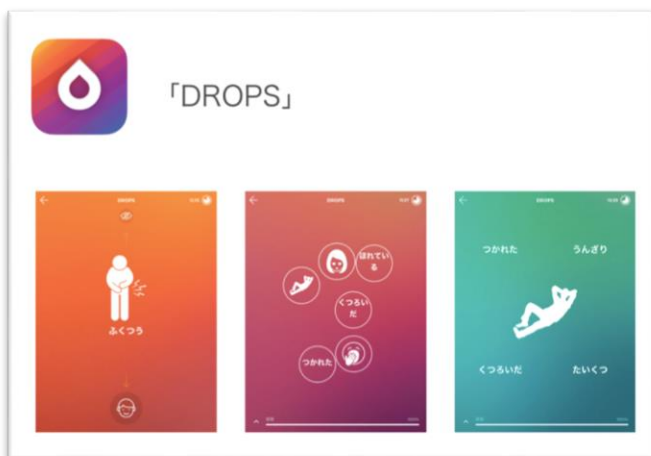
→上記を満たしたものとして、「Drops」「語彙指導アプリ」を選定した。

<結果>

- ・自宅で行うため、語彙学習に当てる時間が増えた。
- ・自分ひとりで取り組ませることで、主体的に学ぶ経験を蓄積することができた。



語彙学習のアプリを選定するための基準



操作性も良いため、一人でも学びやすい



音声読み上げも充実している

## ②-2 物語のあらすじや感想を伝える

・言葉の表出量を確保するため、自宅で絵本アプリや10分程度の物語動画を見て、あらすじや感想をチャットで伝える活動を行なった。結果的に30本程度の物語の共有を行うことができた。動画や音声読み上げを元に、自分一人で課題に取り組むことができたため、保護者の負担なく進めることができた。



自宅学習から一定の書き言葉の表出量を確保できたのは大きかった

### ③翻訳機を用いて、保護者とやりとりを行う

・翻訳機能のある「ポケットーク」を用いて保護者とやりとりを行った

→担当者と主にやりとりをするのは母である。

母は10数年日本に住んでいるため日常生活レベルのやりとりはできる。しかし、本児の年齢が上がり、学校からの連絡事項が増えてきたり、学習内容が複雑化・抽象化していったりする中で、本児へのフォローが難しい場面も増えた。(例:本児が友人とトラブルを起こした際に、担任から事態の流れを説明されたが、因果関係などをうまく汲み取ることができなかった)ポケットークを用いていくことで、複雑な内容のやりとりが可能になり、保護者との円滑なやりとりに繋がった。

【ポケットークを使った保護者への報告の具体例】

「このお話は第二次世界大戦中の日本が背景にあるため、まず戦争下における日本の生活がどんなものだったのかを知る必要があります。そのため、今日の通級では当時の日本の生活がどのようなものだったのかを、動画や資料を見ながら確認しました。〇〇くんは興味深そうに当時の映像を見ていましたよ」



### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### <主観的気づき>

- ・言葉を言葉で言い換えることができるようになってきた。また、状況を言葉で説明することが上手になってきた。授業への参加や内容理解の向上、友人とのトラブルの減少などは、そういった言語力の向上が下支えとなっているように感じる。
- ・「理科が難しい、わからない」と本人が伝えてきたため確認すると、「ふっとう」「ゆげ」「こたい」「えきたい」などの用語や言い回しに難しさを感じていたことがわかった。言葉を確認してあげると、学習内容は問題なく理解できた。分からない言葉に出会ったとき、どのように対応していくかが今後の課題である。

#### <周囲の声>

- ・国語の授業でもしっかりと授業参加をし、意見を述べることができている。だいたいの内容は理解できていると思う。(担任)
- ・以前に比べ、語彙力がかなりついてきたように感じる。(父)
- ・学校から帰ってきたとき、機嫌が悪くなることが減った。トラブルが減ったんだと思う。(母)
- ・習い事(公文)を前ほど嫌がらなくなった。(母)

#### <エビデンス>

#### 各種検査

【LCSA(学齢版言語・コミュニケーション発達スケール)】(初回:R1年5月30日 再検査:R2年12月3日)

口頭指示の理解	聞き取り文脈理解	音読	文章の読解	語彙知識
8→11	4→2	4→6	8→6	3→2
慣用句・心的語彙	文表現	対人文脈	柔軟性	音韻意識
5→8	3→6	2→9	5→9	8→12

[ LCSA 指数 ] 63→78

[リテラシー指数] 78→86

(※「聞き取り文脈理解」「語彙知識」も素点自体は上昇している)


【PVT-R(絵画語い発達検査)】(初回:2020年6月2日 再検査:2021年1月21日)

評価点:6→6 ※素点自体は上昇

- ・「価格」「製造」「通行」など、意味は平易だが、音に馴染みのない言葉の定着が悪かった。

【再生ナラティブ言語評価法】

- ・話を組み立てる力は小3平均程度まで向上したが、語彙や接続詞の活用といった表現の複雑さは横ばいだった。
- ・一文の情報量が増し、説明がわかりやすくなった。
- ・動作主が明確な表現が増えた。
- ・「まもるくんはフクロウを見てびっくりされて」など、受動態の表現には苦慮する様子がみられた。

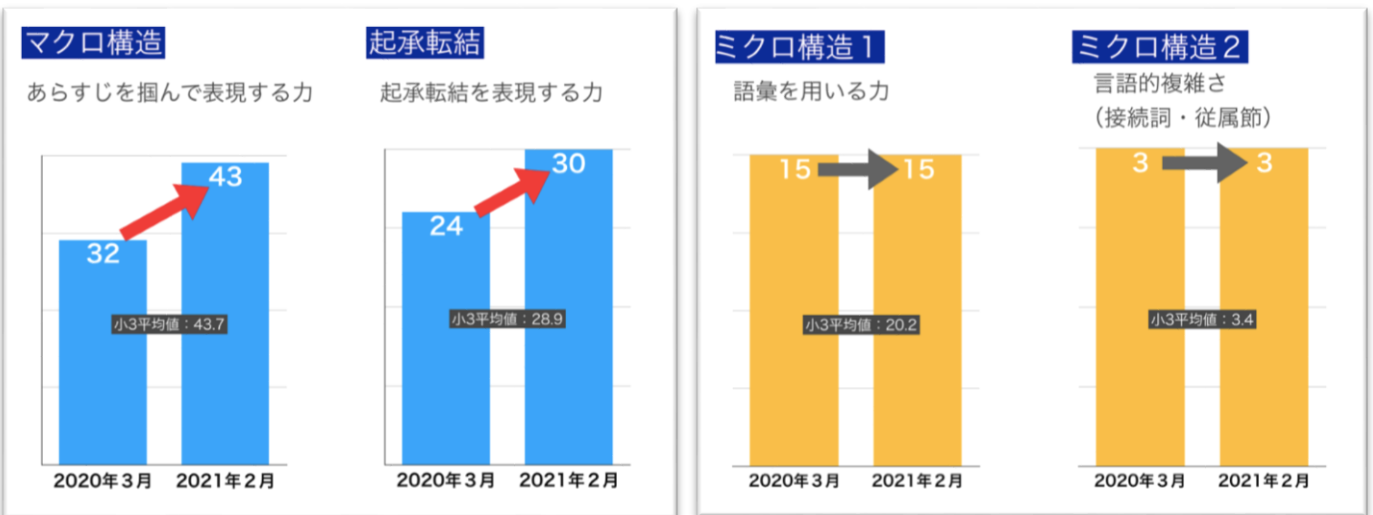


**ナレーション**  
突然、何かが聞こえてきました。よく聞くと、それはカエルの鳴き声です。

**before**  
声を聞こえるかと思ったら、聞こえませんでした。

**After**  
そしたら、カエルの声が聞こえて、カエルの声がするところに探しました。

作文



- ・接続詞を使うようになり、話の順序や構造を意識して文を書くようになった。
- ・「おりがみ→おにがみ」のような音の捉えの曖昧さからくる書き誤りが減った。
- ・助詞の誤りも減少した。
- ・主語が抜けることが減り、相手に伝わりやすくなった。



**6月に書いた作文**

【単語の書き誤り(青文字)】

- ・あいだ↓はいだ
- ・りゆう↓りりゆう
- ・おりがみ↓おにがみ
- ・いっばい↓いばい
- ・りゅう↓りゅう

（お題…休校中の3ヶ月間、何をしていましたか？）

ぼくは、3ヶ月のあいだつまらなかつたけど、いつの日はぼくは、紙のおりがみやおえかきがうまくなくて、いた。

そのりりゆうはえとかおにがみをいばいれんしゅうして、うまくなつたからです。いえのてつだいもできます。メールでさいしょはうつのがわかんなかつたけどお母さんのをみて、いろんなもじもつることができました。

テレビでユーチューブがみたかつたとき3月14日のたんじょう日には、火がテレビにユーチューブをつけて、ほんとにかなえてくれました。

おとこの学校がはじまるときパンやさんにパンをかつてきました。

前半の作文では音の捉えの曖昧さからくる書き誤りが目立った

(お題：4年生でできるようになったこと)

まずさいししょにすいえいのことをおしえます。

すいえいではできるようになったことはひらおよぎ、バタフライのキック、

バタフライです。これですいえいのことをおわります。

つぎはことばのべんきょうのことばをいくつかいっばいいろいろなことばの  
いみがわかります。

そのつぎはべんきょうです。先生におしえてべんきょうもよくわかりました。

次は英語です。英語は言うことをおぼえました。

まだぜんぜんすこししかしゃべれませんが、だからがんばります。

そのつぎは中国語をおぼえました。1つしかおぼえませんでした。



【つなぎ言葉の活用(赤文字)】

- ・まずさいししょに
- ・つぎに
- ・だから
- ・そのつぎは

アリは夏に働いて、キ  
リギリスはなつに働い  
てない。キリギリスは  
サボって歌いました冬  
になるとキリギリスは  
ごはんはありません。  
あっちもこっちもあり  
ません。キリギリス  
はありの家にきました  
。ありは家族のごはん  
しかありません。その  
キリギリスは泣いて  
いました。おわり👤

動作主をきちんと書くようになった

つなぎ言葉を使って文を構造化するようになった